

ECOMMIT

Service Overview

Who is ECOMMIT ?

ECOMMIT

地球にコミットする循環商社

すべての必要と

すべての不要をつなげる。

捨てない社会をかなえる。

会社名	株式会社 ecommit (Webサイト)
創立年月日	2007年8月17日 (2008年10月1日設立)
従業員数	130名 (2023年01月現在)
本社所在地	鹿児島県薩摩川内市
売上高	10億円 (2022年実績)
資本金	1億7,121万円 (資本準備金含む)
年間取扱重量	12,000 t
事業内容	循環型社会に向けたインフラ・システム開発 及びリユース・リサイクル事業 回収・選別・再流通という手間の掛かる工程を一括で担い、循環のサイクルをワンストップで提供。また、自社開発のトレーサビリティシステムにより、収集したデータを自動集計し、リユース・リサイクル率の算出、CO2削減量をレポートニング。

多くの民間企業様や地方自治体様との協業実績

企業
Enterprise

自治体
Municipality



E S T N A T I O N



30+



TREASURE FACTORY



鹿児島県大崎町、
屋久島町、
京都府亀岡市、
埼玉県さいたま市、
佐賀県佐賀市…

その他、多数のお客様とお取引させていただいております



川野 輝之 Teruyuki Kawano

代表取締役CEO

1984年生まれ、大阪出身。高校卒業後に中古品輸出企業に就職し、4年間の修行期間を経て22歳でECOMMITを創業。創業後中国に輸出された日本の電子ごみによる環境負荷を目の当たりにし、トレースできない中古品の海外輸出を一切停止。現在は自社開発システムを主軸に、企業や自治体のサーキュラー・エコノミー推進事業を全国展開中。



吉井 大希 Hiroki Yoshii

取締役CFO

九州大学工学部卒。大学院在学中に公認会計士試験合格後、有限責任あずさ監査法人へ入社。2011年、公認会計士登録。2014年、日系会計事務所の Managing Director 就任に伴いタイへ赴任。帰国後、ECOMMITと出会い参画。2018年、合同会社カズミル設立。



山川 咲 Saki Yamakawa

取締役CBO (Chief Branding Officer)

CRAZY WEDDING創設者。1983年東京生まれ。大学卒業後、ベンチャーのコンサルティング会社へ入社。退職後、2012年に完全オーダーメイドのウェディングブランド「CRAZY WEDDING」を立ち上げ。その後、産休・育休を経てIWAI OMOTESANDOの立ち上げに携わる。2020年3月27日にCRAZYを退任し独立。2020年12月にホテル&レジデンスブランド「SANU」の非常勤取締役及びCreative Boardに就任。2021年1月に神山まるごと高専クリエイティブディレクター就任。



坂野 晶 Akira Sakano

取締役CSO (Chief Sustainable Officer)

日本初の「ゼロ・ウェイスト宣言」を行った徳島県上勝町の廃棄物政策を担うNPO法人ゼロ・ウェイストアカデミー元・理事長。地域の廃棄物削減の推進と国内外におけるゼロ・ウェイスト普及に貢献。2019年世界経済フォーラム年次総会（通称ダボス会議）共同議長。2020年より一般社団法人ゼロ・ウェイスト・ジャパンにて循環型社会のモデル形成に取り組む。2021年、脱炭素に向けた社会変革を起こす人材育成プログラムGreen Innovator Academyを設立。

循環を阻む3つの課題

1

社会

循環インフラの
圧倒的な不足

2

企業・自治体

それぞれの
取り組みが**単独**

3

生活者

身近なしくみが無く、
循環ライフスタイルが
定着しない

業界・組織をつなぎ、循環型社会を実現する

Circulation

サーキュラー・エコノミーを 実現するインフラ構築

循環のインフラを構築し、
あらゆる人にとっての
「捨てない」選択を当たり前にする。
同時に廃棄に係るCO₂排出量の削減と
環境負荷の少ない商品づくりを促進。



Technology

加速する社会変化に伴う SX_※推進

※サステナブルトランスフォーメーション

リサイクル工程のDX化により
一元的に回収・分類しデータ化。
「捨てる」だけの選択肢から
次の必要へと最適につなぐ、
持続可能なネットワークを全国で構築。

企業や自治体の環境貢献度をリアルタイムで可視化しレポート。



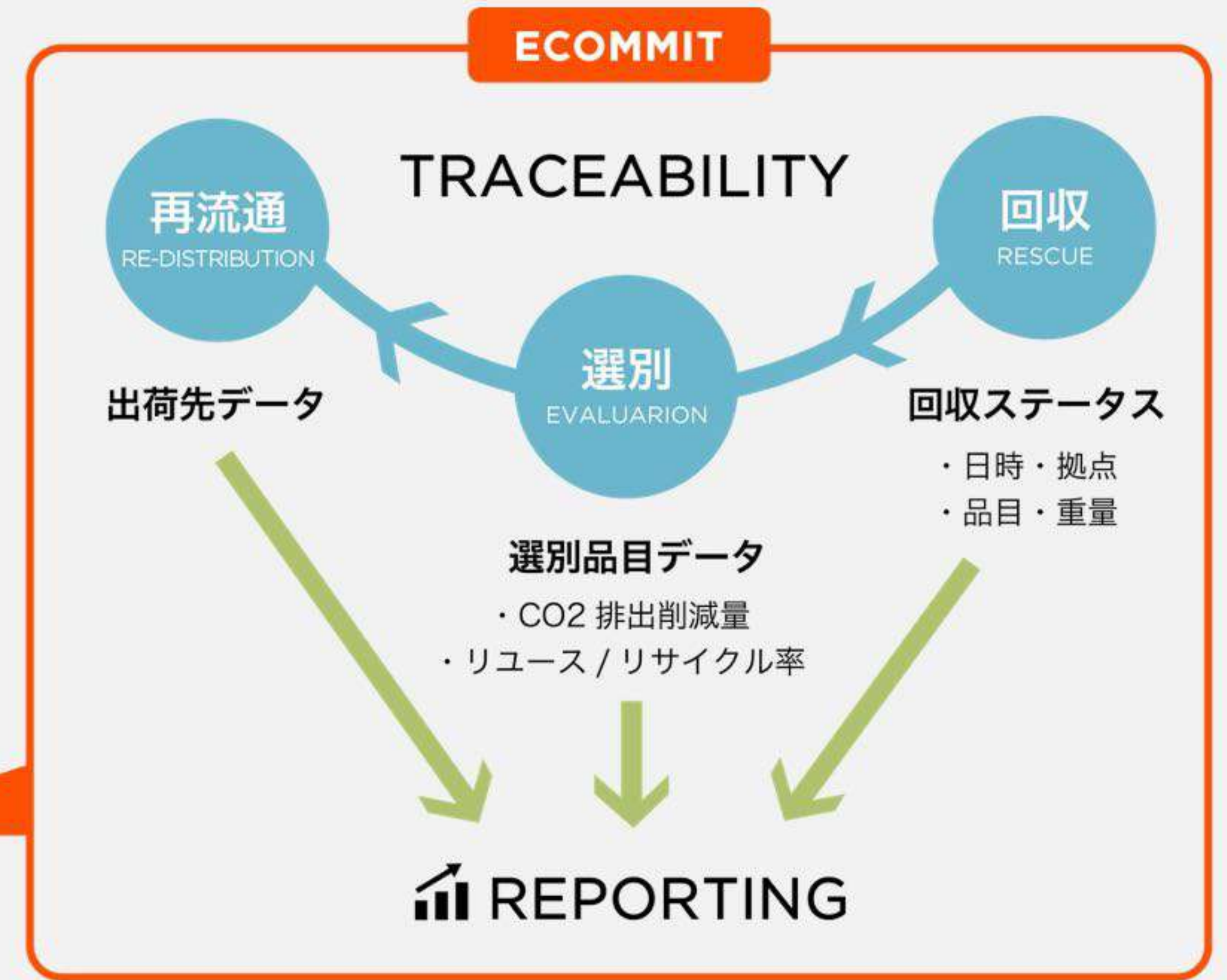
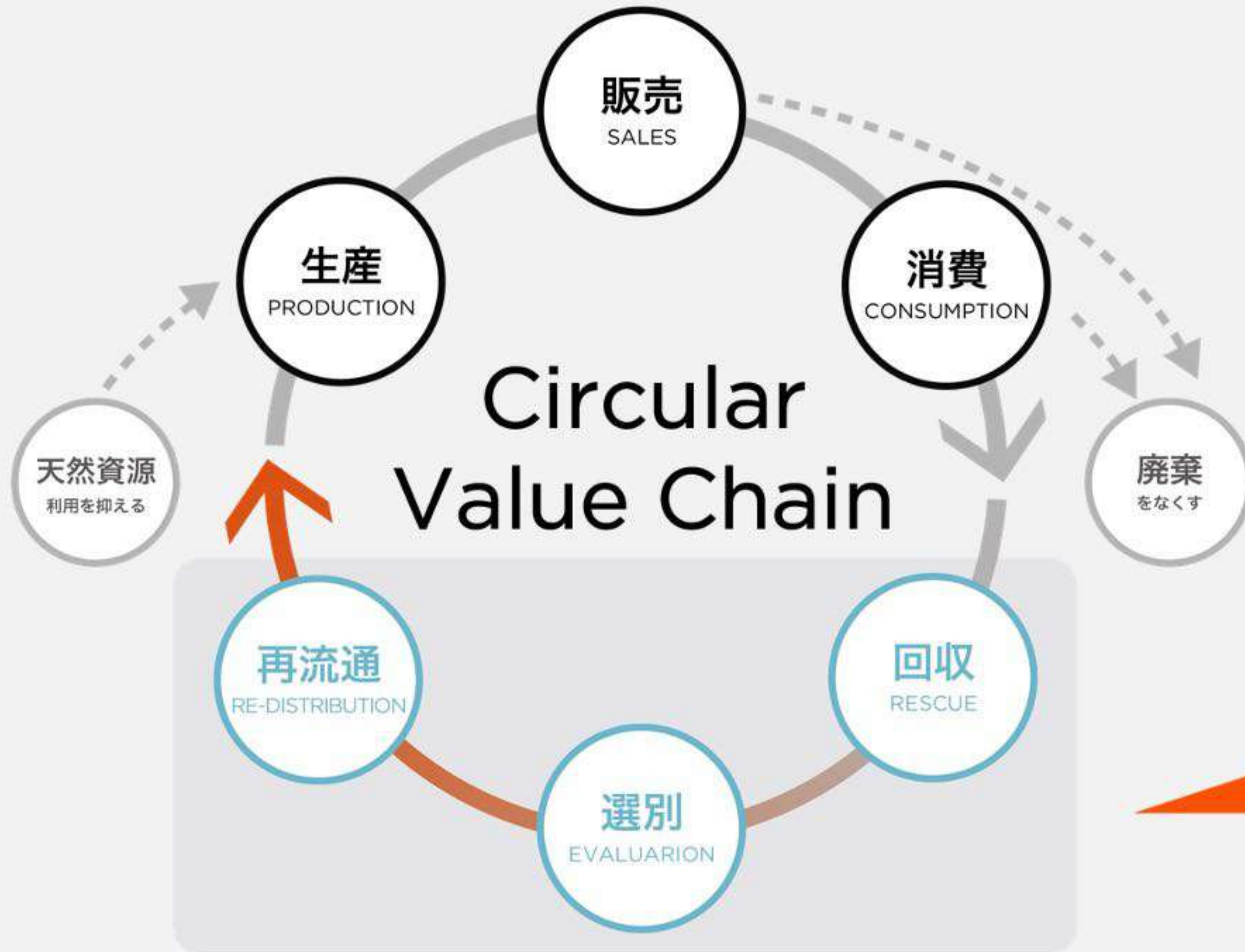
ECOMMITの事業

Our business

これまでの直線的なValue Chain



これまでのValue Chainでは、
販売・消費された後にほとんどのものが捨てられてしまいます。
自然の資源が、消費と廃棄の一方向に向かっています。



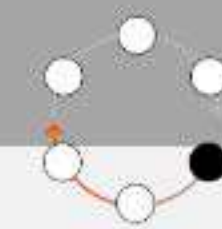
15年の実績を活かした、全国対応型の”回収物流ネットワーク”、回収した物の経済的価値を最大限生かす”選別ノウハウ”と”販売ネットワーク”を持ち、回収・選別・再流通という手間の掛かる工程を一括で担うことで、循環のサイクルをワンストップで実現。

また、自社開発のトレーサビリティシステムにより、回収から再流通まで”モノの流れ”をデータ化し、リユース・リサイクル率の算出、CO2削減量をレポート。

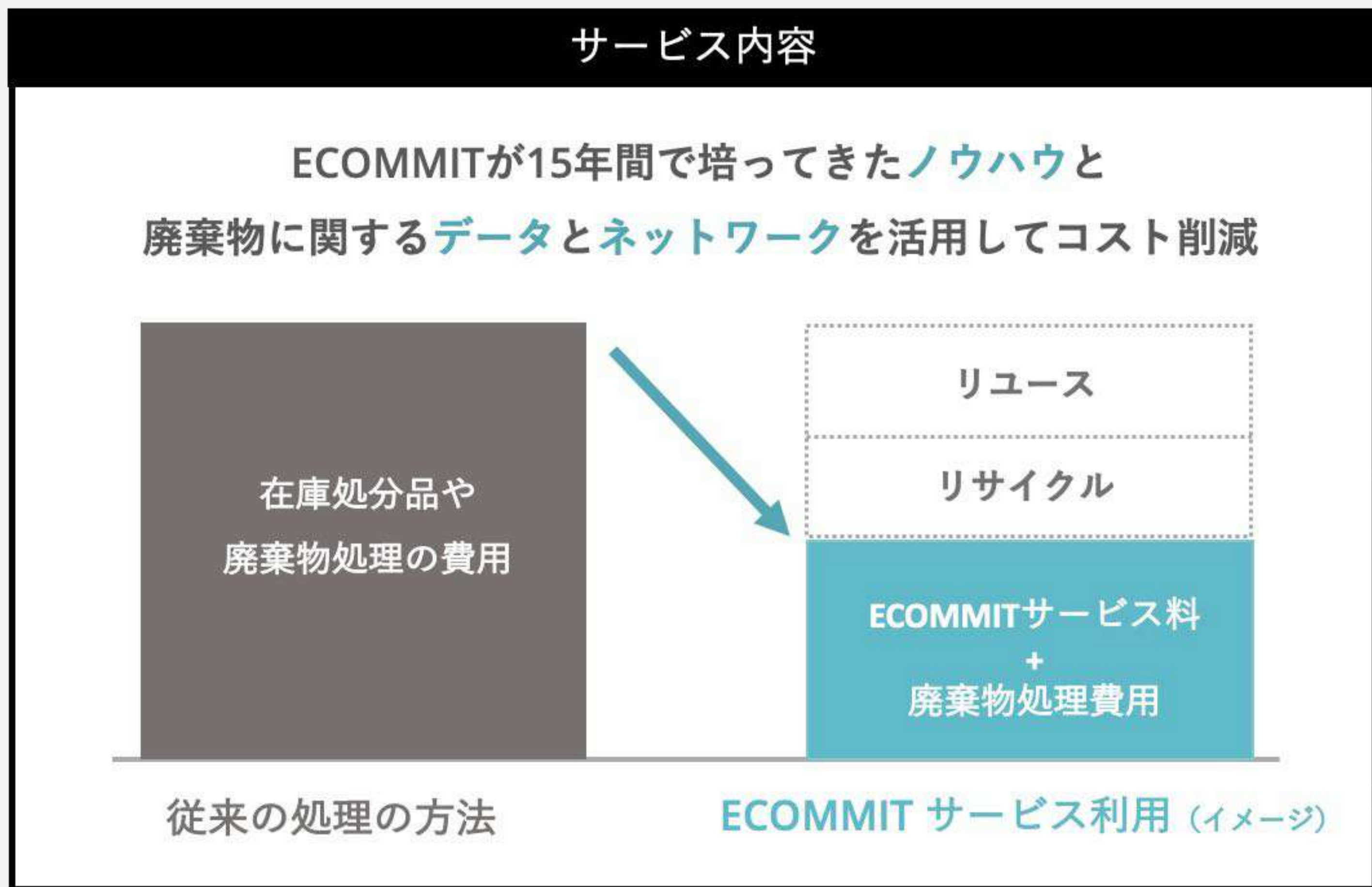


回收

Rescue



「まだ使える・資源になるもの」を資源循環につなげ、廃棄物処理費用を削減



ノウハウ

- ◆ 国内・海外リユース
- ◆ リサイクル各種
- ◆ 廃棄物処理

データ

- ◆ 企業向けの販売価格相場
- ◆ 全国の廃棄物処理単価
- ◆ 海外向けの販売データ

ネットワーク

- ◆ 国内外のリユース企業
- ◆ 全国の処理業者



生活者（お客様）が気軽に不要品を持ち込める場所を、
店舗や施設などにつくり来店促進や顧客満足度向上につなげる



企業担当者

環境活動を手軽にでき、
その効果を見える化でPR。
集客にも繋がって、販売促進！

環境意識の高いお客様の満足度を
上げたい。販売促進したい。



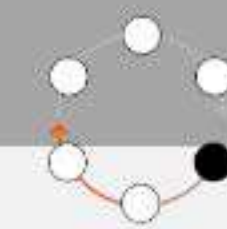
RE;POSTご利用・設置イメージ

生活者（お客様）



普段行くお店へ
買い物ついでに
気軽に持ち込める！

不要品を自分で販売したり、リユース
店に持ち込むのは面倒。



地域単位から環境負荷低減への具体的な対策が急務

既存の施設・設備はそのままに、効率的かつスピーディに。

循環型社会の形成

3R

一方通行的な大量生産大量消費の社会から、資源・エネルギーなどの循環性を高めた社会構造への転換が求められています。

低炭素・脱炭素社会

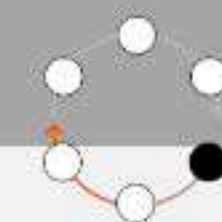
ゼロカーボン

低炭素（排出量の抑制）から脱炭素（二酸化炭素の排出量を実質ゼロにする）ゼロカーボン社会への転換が求められています。

持続可能な社会

SDGs

3Rやゼロカーボンへの取組みをさらに改良することで課題を克服し、持続可能な社会への転換（SDGsへの貢献）が求められています。



クリーンセンターに集まる廃棄物からリユース品を収集し、ごみの減量化を図る



従来フロー

生活者

クリーンセンター/資源化センター

埋立処分場

ごみ減量化

まだ使える品物（リユース品）を収集する

主に直接搬入の粗大・不燃ごみが対象



焼却・埋立処分量の削減

CO2二酸化炭素排出削減

回収品はECOMMITが買取

創業14年で培った多様な販売ルート活用で幅広い取扱い商品を実現します。



ごみ処理費用の削減

回収品の追跡システムを提供

回収したリユース品の状況確認・追跡ができる仕組みを構築します。

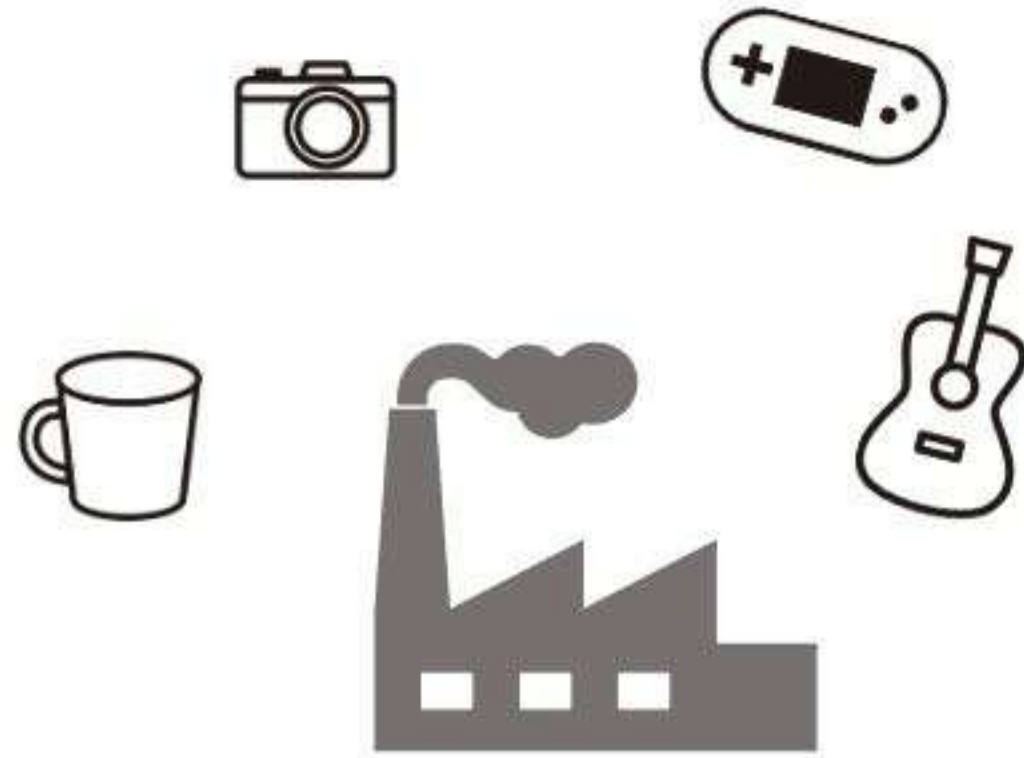


ごみ処理の透明性確保



クリーンセンターに集まる廃棄物からリユース品を収集し、ごみの減量化を図る

既存のごみ処理フローの一環として まだ使えるもの（リユース品）を収集



主に持ち込みの粗大ごみ・不燃ごみを対象に、持ち込みの対応や手選別を担当する作業員の皆さまに、まだ使えるもの（リユース品）を収集していただきます。既存のごみ処理フローを確認させていただき、最適な収集方法をご提案いたします。

収集されたリユース品を 一時保管



収集したリユース品は、エコミットが回収にお伺いするまで、クリーンセンター内で一時保管をお願いいたします。雨に濡れない、常時保管が可能なスペースを最低8坪程度確保いただくことをお願いしております。保管に必要なカゴ台車や折り畳みコンテナはエコミットがご提供します。

POINT
1

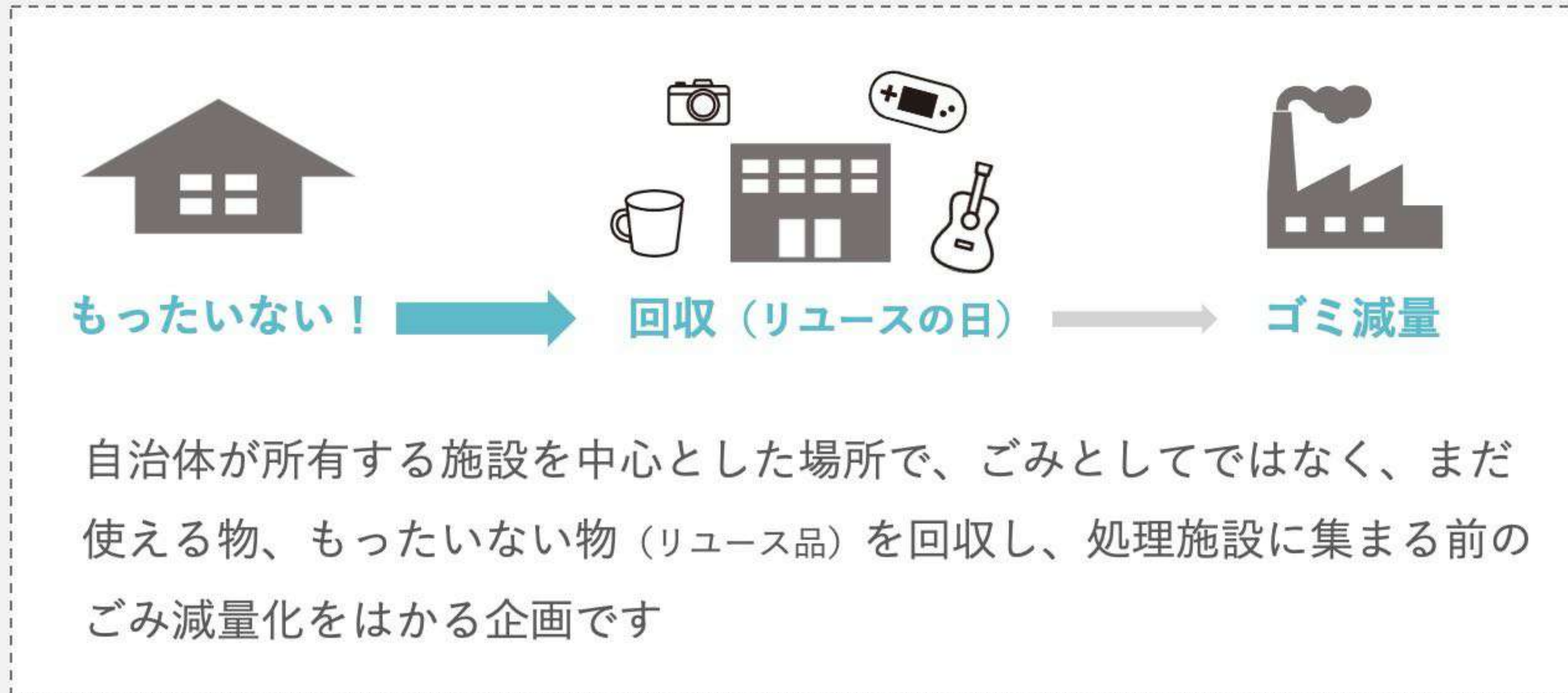
リユース品の収集にあたって、特別な技術は必要ございません。金属類、資源化物等と同じように、まだ使えるものがあれば選別いただく作業です。

POINT
2

リユース品として収集できる物の品目や基準についてはエコミットにて現場スタッフの皆様への研修を実施いたします。



ごみではなく「リユース品」として回収する日をつくる



いくつかの自治体の皆様と
実証実験をおこない、
その有効性が明らかに！

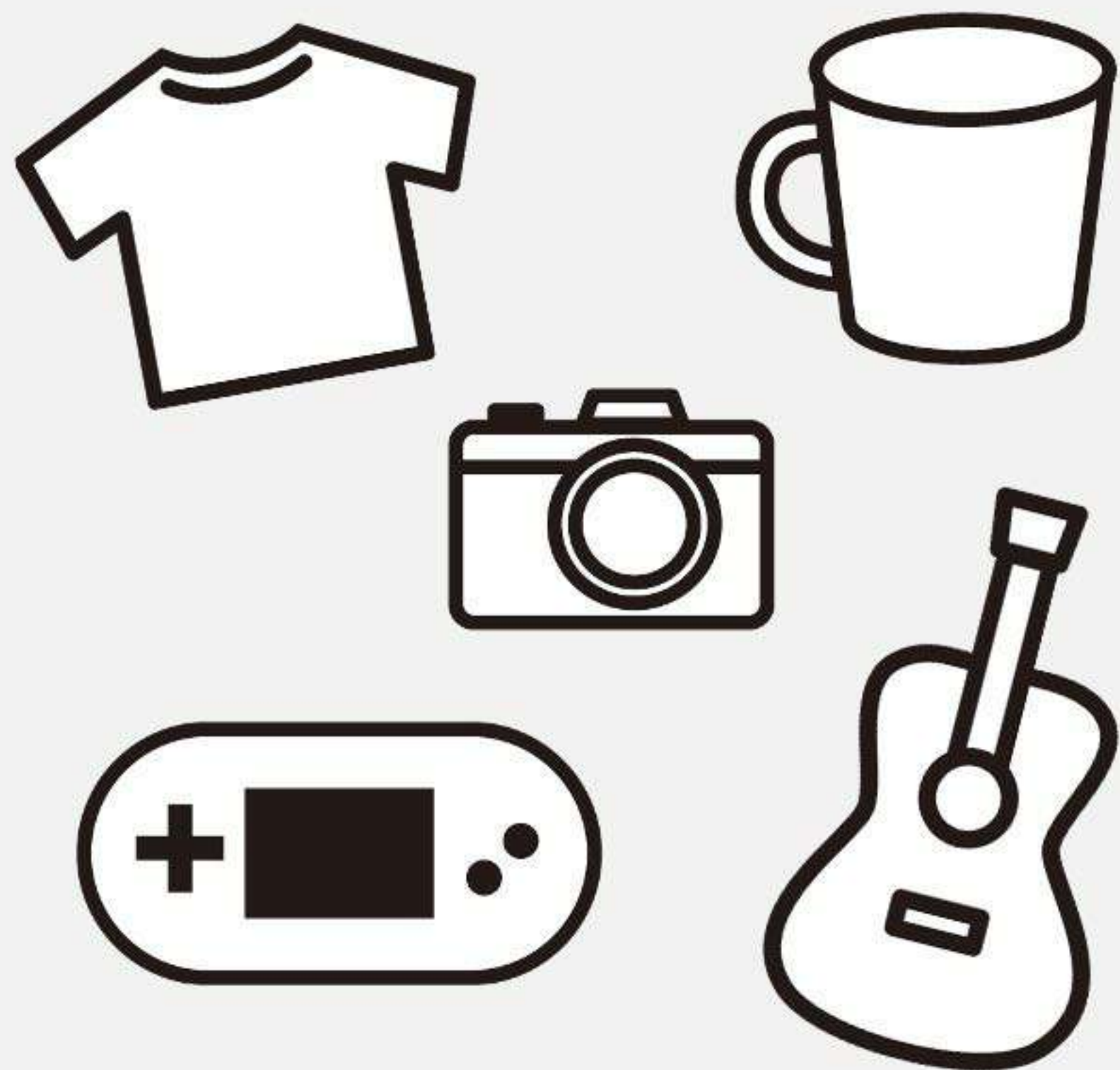
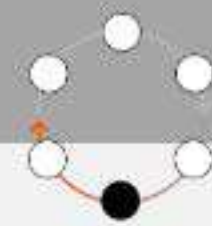


ごみを減量化するために、
「リユース品」を回収する
イベントを開催しませんか？

A man wearing a red beanie, glasses, and a dark green jacket is examining a grey sweater. He is standing in a room with purple metal frames, possibly a laundry or storage area. The background shows a wall with a grid pattern and windows. The text "選別" is overlaid on the sweater, and "Evaluation" is written below it.

選別

Evaluation



15年のノウハウが当社に集積。
自動化が難しい領域でも
目利きのできるスタッフが

123品目に選別します。



食器・キッチン用品

お皿、コップ、茶碗湯呑、カトラリー（スプーン・フォーク）、お箸（金属のみ）、鍋、フライパン、やかん、キッチンツール

雑貨

スポーツ・アウトドア用品、釣り具（リール・竿・ルアー）、ガーデニング用品、スーツケース、楽器、ヘルメット

工具

手工具、電動工具（インパクトドライバー・電動ドリル・サンダー・ポリッシャー・グラインダー・チェーンソー）、工具箱

衣類・ファッション雑貨

衣類、アクセサリー、腕時計、鞆・財布、ベルト、帽子、サングラス、ネクタイ、メガネ、髪飾り

家電

音楽プレーヤー、ラジカセ、アンプ、カセットデッキ、スピーカー、ビデオデッキ、ミシン、編み機、カメラ、楽器

おもちゃ

ゲーム機、ゲームソフト、ミニカー、プラレール、ブロック、カード、プラモデル、ラジコン、フィギュア、ぬいぐるみ、知育玩具、乗用玩具

家具・インテリア

タンス、クローゼット、テーブル、イス、ソファ、本棚、ベッド、食器棚、メタルラック、絨毯、カーペット、照明器具、置物（壺含む）、絵画・額縁、置き時計、掛け時計

POINT
1

壊れ、破れ、欠品、ひどい汚れやカビなどがある場合は引き取り不可となります。

POINT
2

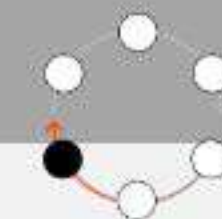
ご依頼の内容によっては、上記製品においても取扱いが難しい場合もございますので予めご了承ください。

tex

CAUTION
2,9m 9½ HIGH

再流通

Re-distribution

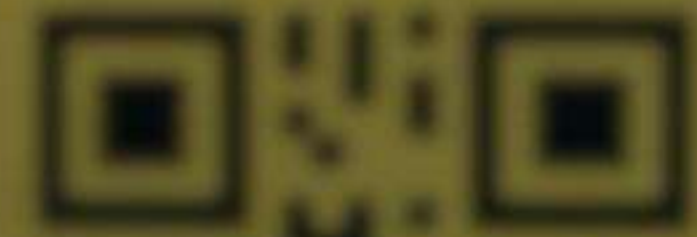


リアル×デジタル
地方×都市
幅広い取扱商品を実現

15年で培った目利き力と幅広い販売チャネルを保有。
まずはモノの価値を最大化する国内マーケットへ。



Why ECOMMIT ?



22-12-21

1421130013718

SR-100



各工程でトレーサビリティを確保し、透明性の高い循環プロセスを実現

1

一気通貫したレポーティング

業務（回収～帳票発行）の省力化や、廃棄物の発生状況や再生資源、ポテンシャルなどの環境への貢献度をリアルタイムにレポーティング
従来の労働集約型ビジネスをシンプルかつスピーディに

独自開発のトレーサビリティシステム： Eco Value Pack (EVP)

2

充実な機能 & UI/UX

- ・リアルタイム自動集計
- ・GPS店舗検索
- ・自動計量・自動登録

3

計量システムとの連動

物流現場で検定済み計量器に回収物を載せるだけで
Bluetooth → スマホ端末へ簡単かつ正確にデータ登録

4

取得データの利活用

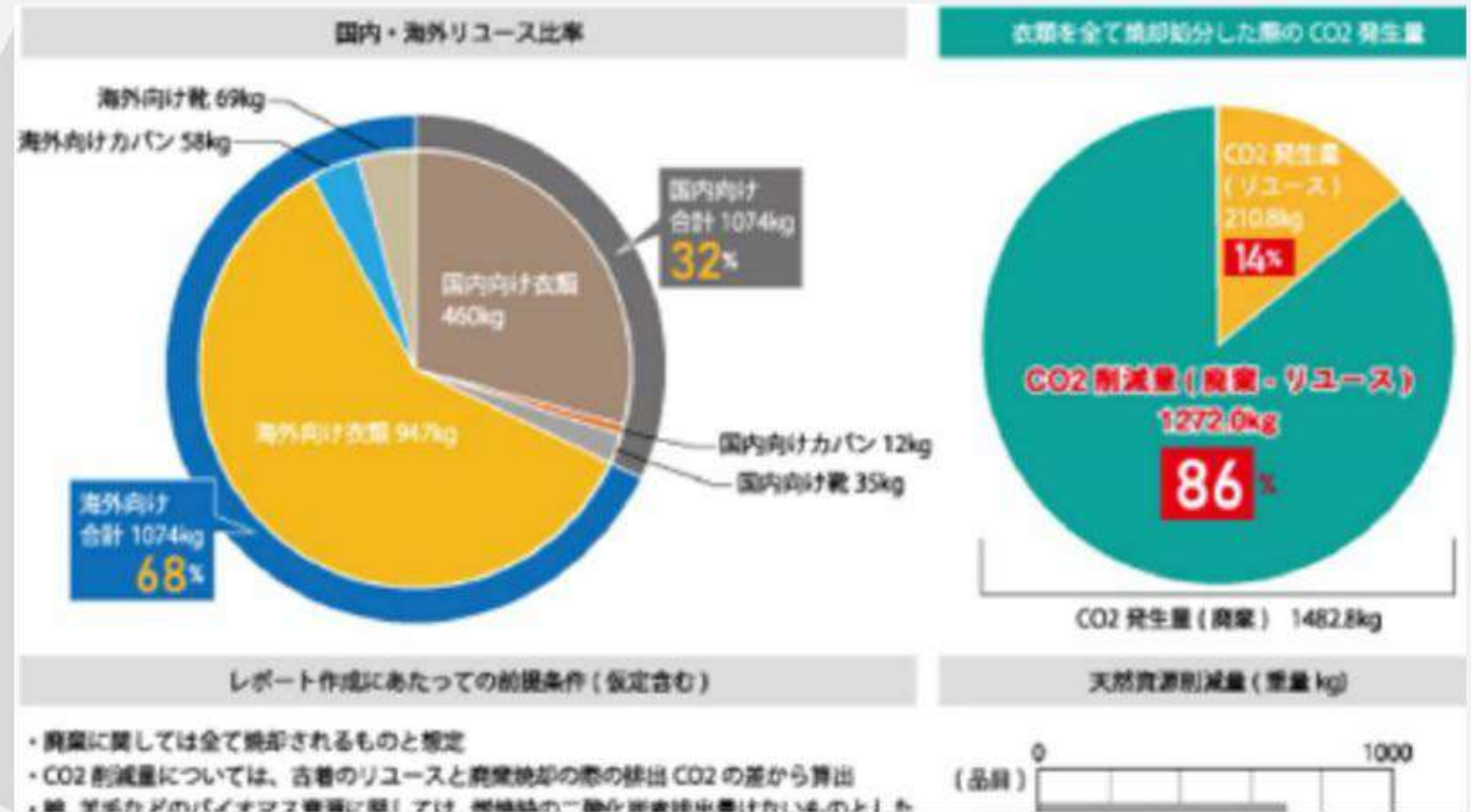
- ・GPSによる走行データ
- ・排出先毎、種別の重量データ
- ・CO2削減量
- ・環境貢献度情報
- ・回収品別のトラッキング情報 等



※画面はイメージとなります。



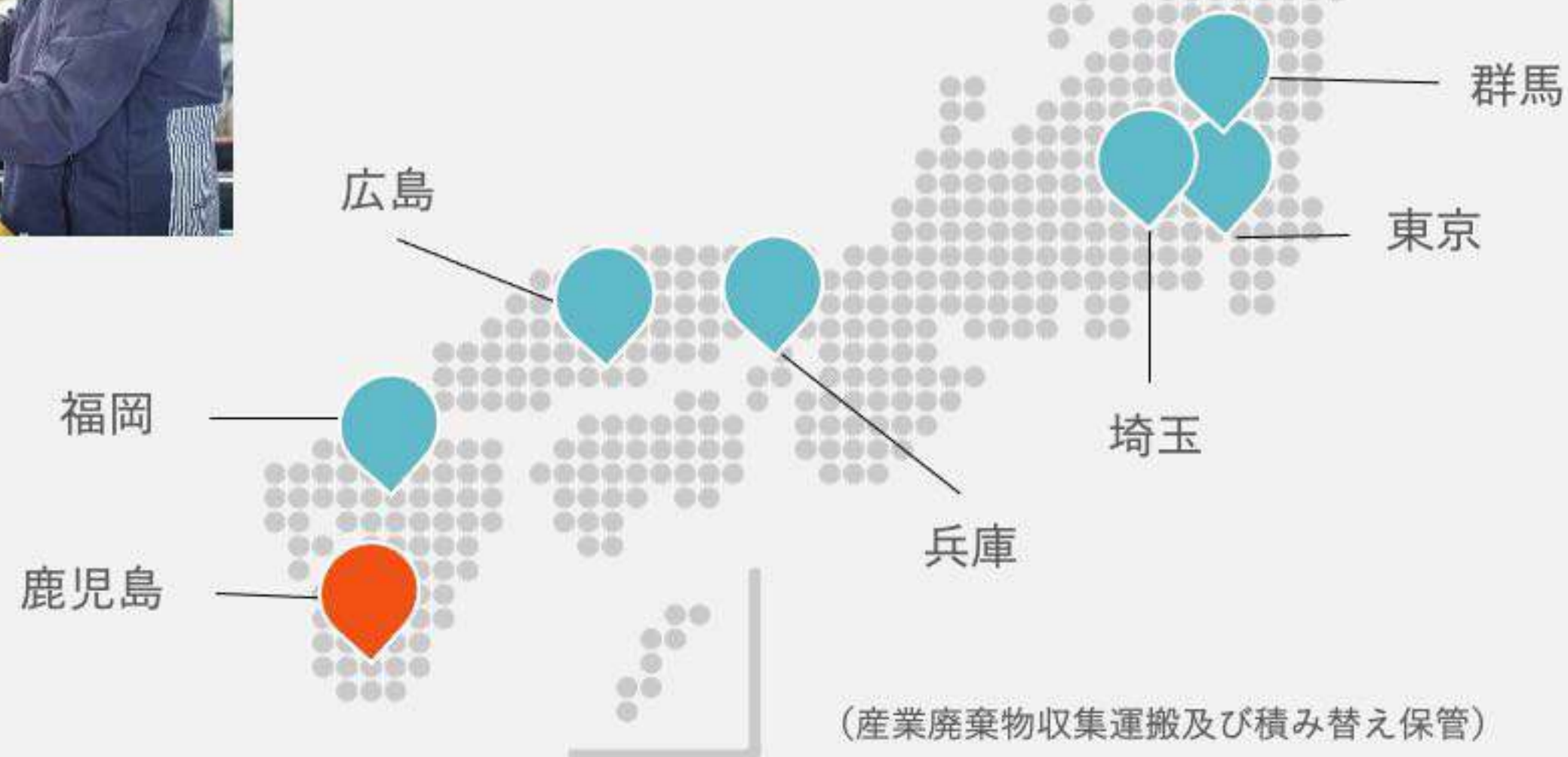
トレーサビリティシステムで数値管理し、環境アクションレポートをご提示



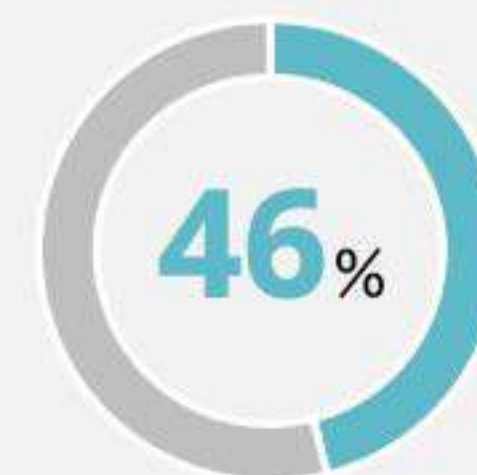
- ✓ 何がどれくらい集まったか
- ✓ どこでどれくらいリユースされたか
- ✓ どれくらいリサイクルにまわり再資源化されたか
- ✓ どれくらい廃棄がでたか
- ✓ 焼却処分などと比べどれくらいCO₂の排出を抑えられたか

全国7か所の 循環センター

許認可取得
全国24都道府県
自社車両30台



現場の女性比率



女性管理職

7名

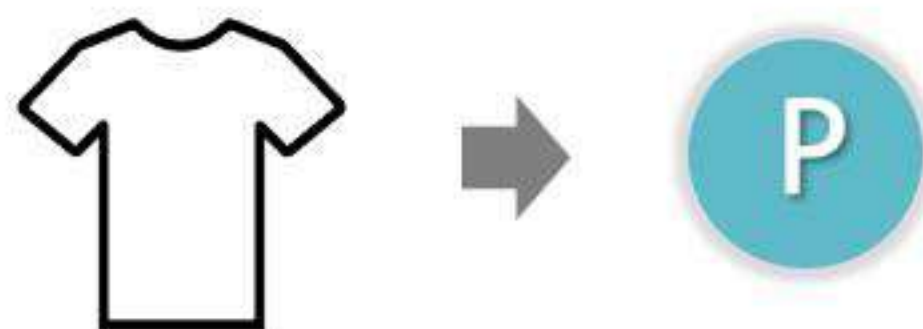


(2023年1月時点)

Green Life Point System 全体概要

不要品回収

不要になった品物の提供



不要になった品物を回収ボックスに提供することで、ポイントを取得できます。

店頭回収を中心に実施



設置された回収ステーションに持ち込めます。「処分にかかる手間や労力」を解決。

ポイント発行

取得したポイントは、地域で使えるクーポンと引き換え



環境貢献活動を、地域経済の活性化につなげます。

※食と暮らしの「グリーンライフ・ポイント」推進事業 <https://ondankataisaku.env.go.jp/coolchoice/greenlifepoint/>

さすてなポイント

LINEミニアプリとして、
幅広いユーザーが利用可能

LINE上で「ポイントをためる」「ポイントをつかう」ことができるアプリ。LINEユーザーであれば、新たにアプリをダウンロード不要。



**ポイントをためる
(もらうボタン)**

**ポイントをつかう
(クーポン交換ボタン)**

専用サイト



アプリ利用



スマートフォン版
LINEのQRコード
でスキャン

クーポン取得イメージ



クーポン一覧から好きなクーポンを選び、取得する。

クーポン利用イメージ



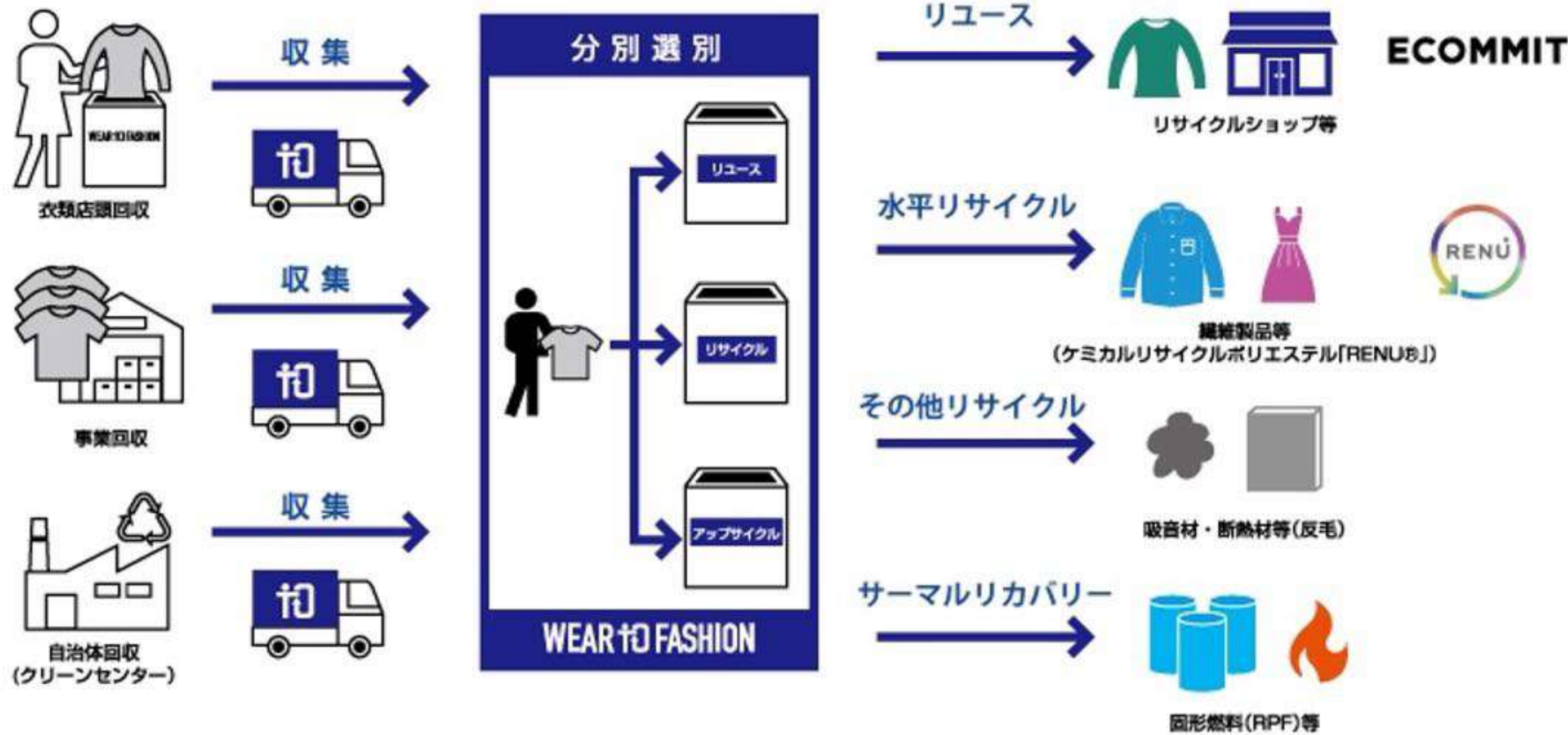
店員の面前で、取得したクーポンの画面を提示する。

※さすてなポイント <https://saga.ecommit-glp.com/>

企業等と共同で再利用や再資源化のスキームを構築。
世の中に「捨てない」選択肢を提供し、捨てられる衣類を減らします。

WEAR FASHION

お客様から衣類を集め、リユース・リサイクルへ繋がります。



余剰在庫の
大量廃棄問題解決

不要品の
循環利用率向上

衣類の
ライフサイクル長期化

生活者の
行動変容

温室効果ガスの削減


資源の有効活用

<http://renu-project.com/wear-to-fashion/>

創業以来培ったナレッジ・循環センター・豊富な出口


15年で培ったナレッジ

国内外のリユースネットワーク



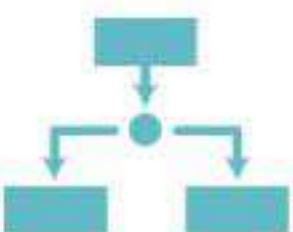
- 長年取引のある海外の有力バイヤー
- 国別/ジャンル別の商品トレンド情報

関連法案に関する知見



- 廃棄物処理法
- バーゼル条約
- 輸出入に関する法案各種

事業基盤を支える生産プロセス



- 高い目利き力
- 高い生産性
- 広範な対応エリア

×

リアルアセット

15年で築いた循環センター

モノの価値を再定義する選別機能循環のコアとなる人材とセンター

データ収集インフラ

物流や循環センターを通して常に蓄積されているデータ。このデータこそが、新規サービス開発のキーファクター。



×

豊富な出口

繊維トップシェア企業との提携



伊藤忠商事 繊維カンパニーとの業務提携により、アパレル企業や幅広いリサイクル企業を開拓

商材ごとの多角的販売戦略

リアル×デジタル
地方×都市
幅広い取扱商品を実現

国内×海外
救い出せる
商品が多い



国内: 越境EC, 国内店舗 (ECO CASE), 国内ネット (販売のプラットフォーム), 国内卸

海外: 海外卸

32カ国110社の海外顧客
長期にわたり築き上げた信頼関係と
有償保証サービス

国内: 全国の1,000店舗のリユースショップネットワーク
※向社物販に基いて販売される

国内: 越境EC, 国内店舗 (ECO CASE), 国内ネット (販売のプラットフォーム), 国内卸

海外: 海外卸

国内: 越境EC, 国内店舗 (ECO CASE), 国内ネット (販売のプラットフォーム), 国内卸

海外: 海外卸

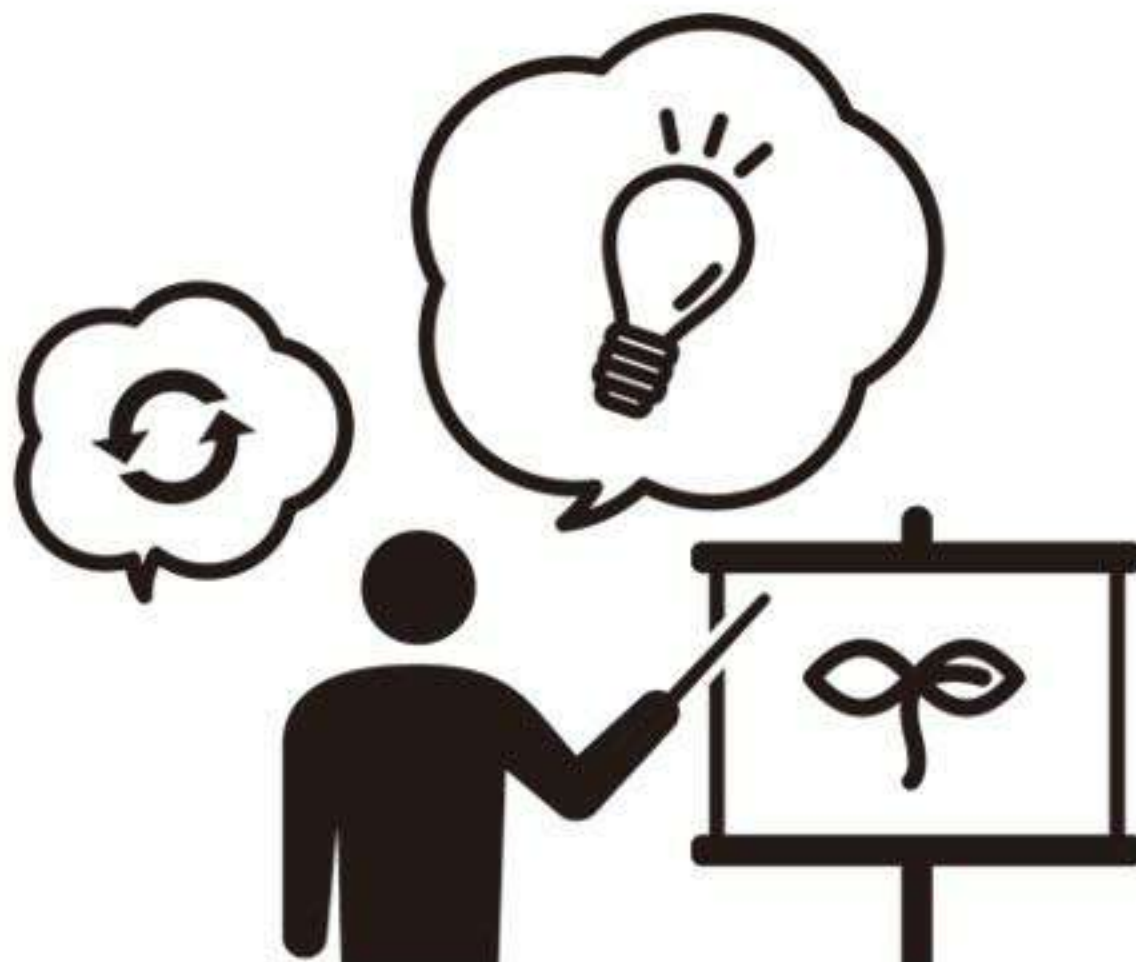
データを可視化し、お客様と共に資源循環のしくみを創造しつづけます

独自の物流システム



幅広いネットワークに加え、
独自の物流を組み合わせた
循環スキームの実現

高い企画力による行動変容



ブランド価値向上につながる、
イベントやキャンペーンの企画、
環境負荷低減に向けたアドバイザリー

テクノロジーを活用した可視化



左記取組みにおける
環境負荷低減効果を
可視化

お気軽にご連絡ください



営業開発部

0996-29-5188



受付時間

平日9:00-17:00



Mail

j.sales@ecommit.jp



Appendix

現在の日本におけるごみ排出量は世界でもトップレベル^(※1)。
このままいくと、ごみの行き場がなくなります。

日本の年間ごみ総排出量

(※2)

4,167万トン

1人1日当たりのごみ排出量

(※2)

約1kg/DAY

最終処分場の残余年数

(※2)

あと20余年

一般廃棄物だけで
東京ドーム約112杯分にのぼる。
さらに産業廃棄物も毎年発生。

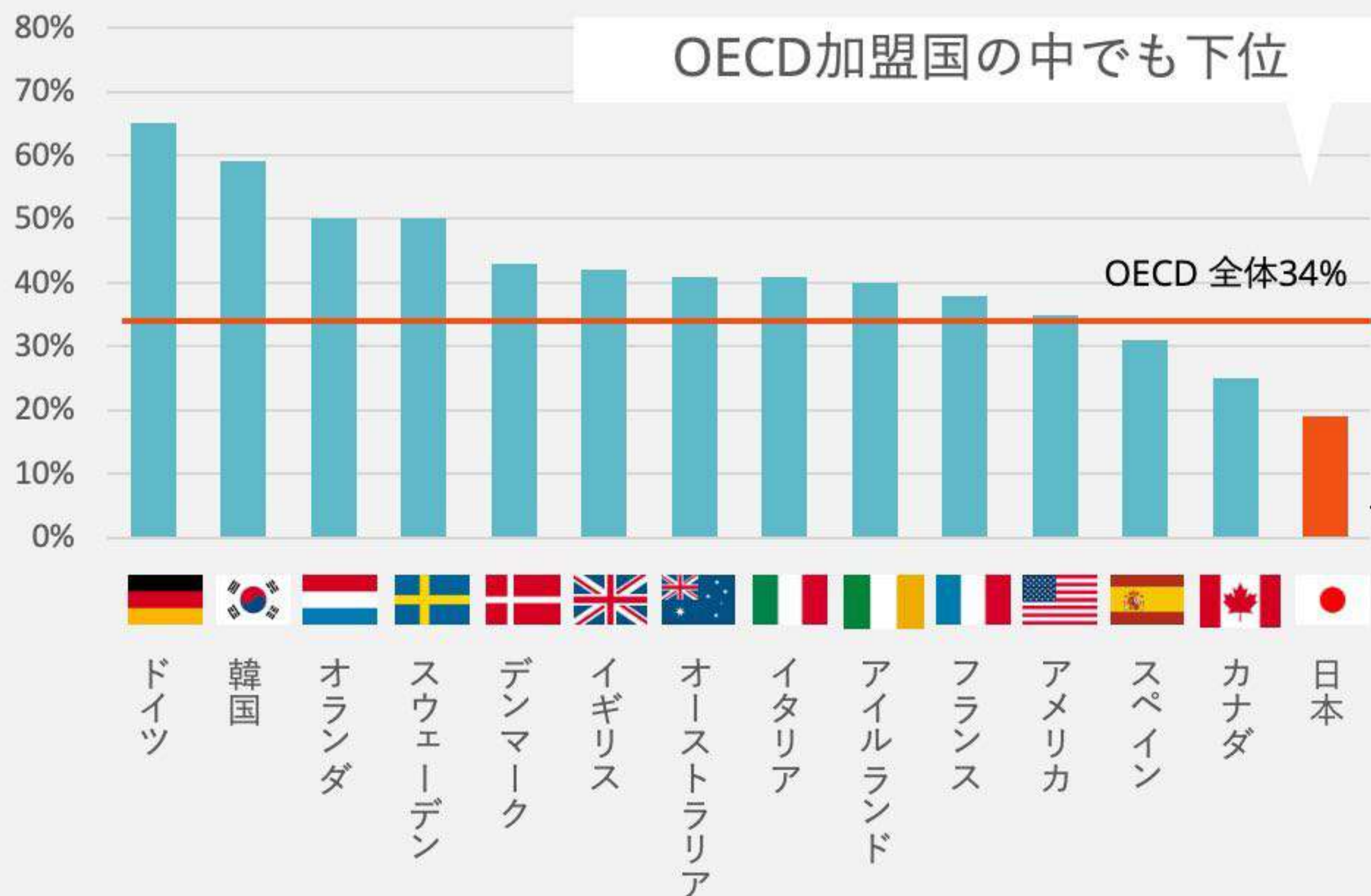
日本人1人あたりが
1日に捨てるごみの量は
901g (約1kg) になる。

新しく最終処分場が整備されず
このままごみが続けた場合、
埋立処分が可能な期間はごくわずか。

※1) 出典 | [世界事典「ごみ排出量ランキング」](#)

※2) 出典 | [環境省一般廃棄物の排出及び処理状況等（令和2年度）について](#)

その現状に対し、日本の廃棄物のリサイクル率は **わずか 20% 程度。**



※OECD リサイクル率 (2013年) を元に作成

※過去1年で

使わなくなった製品のリユース
経験がある人の割合

3名/10名あたり

※「令和3年度リユース市場規模調査報告書」
環境省 <https://www.env.go.jp/content/000076424.pdf>
「中古ビジネスデータブック」リサイクル通信 より



THANK YOU

ECOMMIT